

令和5年度の 取り組み

議会本会議一般質問で
質問・提案した内容

住んで良かったと思える町“葉山”をテーマに…

【教育】【環境】【防災】【福祉】【行財政】の5つの柱を軸に、この1年も町民の皆様との意見交換会の場で頂いた問題点や課題等を確認しつつ、改善すべき点や打開策、新たに取組みべき施策を提案して参りました。

Q:葉山の学校教育・現場のこれからについて

- 発達障害に関する教職員育成プログラムや特別支援員のスキルについての現状の把握と課題を確認し、人員による格差が生じないように、また全体的なスキルアップを要望。
⇒ 逗子市の取り組みを紹介しつつ、有効的な教材の紹介に加え、小中学校の全6校に対して、リソースルームの設置を要望。
- エシカル教材へのシフトとエシカル給食の進捗状況を確認。
⇒ 小中一貫教育に向けて、学年ごとに各パーツを作り次世代に引き継ぐ…新たな教材の在り方、「葉山アサガオプロジェクト」を提案。
⇒ 基本調味料のオーガニック化だけでなく、食材のオーガニック化を要望。
- リユースできる教材、体操着、制服など、PTA任せではなく、町が事業として取り組むように要望。
- 不登校の児童・生徒が増える中、町独自の「フリースクール助成事業」新設に向けた検討を要望。
- 「コミュニティスクール」の進捗と活動状況を確認。“一緒に学校をつくる”という取り組みについて、まだまだ動きが取れていないことを指摘。従来の教育現場にある壁を取り払うように要望。
- 「香害」の啓発に対し、教育委員会だけでなく町の積極的な取り組みを要望。ポスター掲出や広報紙への記事掲載に加え、「化学物質過敏症」や「マイクロプラスチックによる環境汚染」などに対する配慮を含め、政策課、福祉課、環境課が一体となって、それぞれの視点で啓発することを要望。
- 「子どもに特化した町の組織づくり」について、先進自治体の取り組みを紹介。これからの教育環境を変えるには、組織づくりから変えていく(環境を変える)必要があることを提案。
⇒ 鎌倉市の「子どもみらい部」のような、柔軟な対応と情報共有が出来る組織づくり。
- 「スクールファンド」を新設し、民間の活力を最大限利用した“ワクワクする教育プログラム”や、誰一人取り残さない“当たり前の義務教育現場”を創出できるように、制度を取り入れるように提案。
- 「中学校部活動の支援・整備」について、R4年度に予算を大幅増額した備品の新規購入・修繕などの充足度の確認と、新たに浮上した「葉山中学校吹奏楽部の楽器不足」に対する支援について、保護者が進める活動の後押しと、町としてのサポートの検討を要望。



Q:行政の役割や町民サービスの充実について

- 下水道コンセッション方式の導入について、メリット・デメリットの抽出と、先行事例の分析をしっかりとるように提案し、町民説明会の実施を含め丁寧計画を進めるように要望。
⇒ R6年度第1回定例会にて、新たに「ウォーターPPP」導入に向かう意向を受け、そのメリットを資料化し説明するように要望。
※ウォーターPPPとは、水道、下水道などの水道分野を対象とした官民連携方式で、コンセッション(公共施設等運営事業)方式と、「管理・更新一体マネジメント方式」を併せた総称。(完全民営化と異なり施設の所有権は町が保持)
- 庁舎内における、各種ハラスメント対策の取り組み状況を確認し、今後、他自治体でも取り入れているような「ハラスメント防止条例」の導入に向けた取り組みを検討するように要望。



- 葉山町のふるさと納税…出入りの差額は5年間でマイナス約3億6,650円と赤字路線進行中。町長も「完全なる負け組」と言及。制度そのものに不服はあるものの、少しでもマイナスを補填するように提案したゴルフ場への自販機設置施策はカタチを変えて間もなく運用開始予定。

今後は、返礼品の強化にチカラを注ぐよりも、HAYAMA STATIONを中心とした施設や店舗で直ぐに使える、QRコード決済で発行されたチケットやポイントで町中のお店を回遊できる「はやまPay」を導入したふるさと納税施策を提案。

観光協会との連携も視野に入れて!!



Q:住んで良かったと思える町“葉山”について

- 児童保育の「障害児受入推進事業」に対し、グレーゾーンの見極めや判断など、町独自の対象者基準を設けるように要望。
⇒ 町が学校側と情報共有し、独自の基準で対象を拡大!!
- 放課後の児童の居場所について、町営及び民間の学童保育の現状と課題を確認。潜在的な待機児童の改善策として、逗子市で実施している「ふれあいスクール」の導入に向けた検討を要望。
- 町制100周年に向けた取り組みとして、分かり易く・見やすいホームページのリノベーションを提案。
⇒ 先進自治体のデザインと比較検討し、具体的に修正点を抽出。



Q:安全で安心なまちづくりについて

- 日中の働き世代が圧倒的に不足する葉山町においては、日頃からの小中学生に対する防災意識の向上と、より実践に近い訓練を要望。 ⇒ 中学生を中心とした防災訓練の実施を提案。
- 罹災証明のデジタル化について、オンライン申請の導入を速やかに行うことと、発災後の職員の対応における作業時間の短縮、負担軽減を睨んだ有効なシステム導入の検討も提案。
- 横須賀火力発電所における大気汚染調査について、現状の町の意向を確認。

※その他、地域防災力の向上について、自治会格差が無くなるように、町としてのサポートを強化するように要望。(自助・共助の意識改革への植え付けを要望)



分かり易さに拘った質問形式と信念

2017年9月より始めた、プレゼンテーション方式(タブレットの会議システムを利用した質問形式)による一般質問も、今年度末時点で25回を数えました。

この方式では、それぞれの問題点や課題の抽出、又、それに対する改善策等、視覚としてリアルに把握する事が可能となり、聞き逃し対策にも繋がり、質問内容の相互理解も容易になります。

この取り組みは「2022年マニフェスト大賞(地方自治体の議会、首長、市民等による、地域の民主主義向上に資する優れた取り組みを募集し表彰するもの)」にて、エリア選抜として評価を得ています。

また、指摘や批判をする事より、新たな施策や対案をぶつけ、言動にも責任をもって臨んでいます。

今回、この紙面で掲載している“一般質問のプレゼンテーション資料”画像は、ほんの一部です。全ての資料は【“石岡じっせい”公式ホームページ(Reportボタン)】よりご覧になれます。

↳ <http://www.jissei-ishioka.com>

